

ストイック、クール、寡黙、冷淡、一匹狼……。イチローを形容する言葉にはこのような表現が多くあります。「孤高の天才」とも言われています。「イチロー」と聞いて最初に思い浮かべるシーンは、人それぞれだと思います。それほどに彼の成し遂げた偉業を一言で語り尽くすことはできません。日本でもアメリカでも抜群の安定感を持つプレーで輝かしい成績を残し、多くの野球ファンを魅了してきました。私たちが強く引きつけられるのは記録だけではありません。そんな素晴らしいアスリートである「イチロー」が三月二十一日に二十八年のプロ野球人生に幕を下ろしました。

引退表明の記者会見でイチロー選手が語った言葉の一つひとつには、きっと野球を愛し続けた理由が隠されているでしょう。会見中のイチロー選手の言葉の中で素敵だなと思ったものが二つあります。

一つ目は「去年の五月から今日までの日々は、どの記録よりも、ほんの少しだけ誇りを持たた、と思う。」という言葉です。昨年五月に、イチロー選手は球団特別補佐となり試合に出られない状況となりました。それでもチームと毎日、最後まで練習を続けました。私たちは物事をなんでも結果で見えてしまいがちです。結果が良かった、悪かったで自分の全ての良し悪しを決めてしまいます。イチロー選手は結果は良くても悪くても、それまでの過程を大切にすることをお私たちに伝えていています。大きな記録を打ち立てたことよりも今までの日々、過程に誇りを持つことができたイチロー選手だったからこそ大きな偉業を成し遂げることができたのだと思いますし、野球を愛し続けることを貫き通した野球人生だったのだと思います。

二つ目は「人よりも頑張ることなんてできない。あくまで、はかりは自分の中にある。」という言葉です。他人と比べることなく自分に厳しく忠実に毎日、コツコツあくまで自分自身を客観的に評価し、努力してきた姿は素敵だと思いました。

コンクールに出場するということは人に評価されることなので、ある意味、覚悟のいることです。今年の三月にバレエコンクールがあったのですが私はそれを覚悟したものの、本番の一週間前になっても出場したくない気持ちに陥ってしまいました。本当は心も体も頑張りたいのに上手く踊れなくて諦めたい気持ちがどうしても出てきてしまい、悩みました。踊りに関して、自分の良さよりも悪いところばかりを見てしまっていたからだと思います。そんな時、イチロー選手の引退会見での二つの言葉にとても励まされました。どんなに辛いことがあっても前向きにやり通そうと思えました。最後は私の尊敬しているバレエの先生の助言にもたいへん助けられ、無事本番を終えることができました。後日、先生に諦めなくなったことや悩んだことなどをお話したら、私の中に自己否定という感情が生まれたけれど、今より少しでも良い方向に行っていることが大切だ、と教えていただきました。ただ落ち込むのではなく、よく考えるという方向にもっていけば成長につながるとも教えていただきました。自分の良さも課題も認めること、諦めないことの大切さにあらためて気付かされました。

今こうして自分自身を振り返ってみると、イチロー選手は今までどれだけの努力をし、

また苦しいことも辛いこともプロの野球選手として、楽しんでいたのかがよく分かった気がします。私もイチロー選手の言葉を思い出し、苦しいけれどドキドキ、ワクワクしながらこれからもいろいろなことに挑戦し、やり遂げたいと思いました。